

「日々の理科」(第 2290 号) 2020, 10, 19

「浅間山の冠雪(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

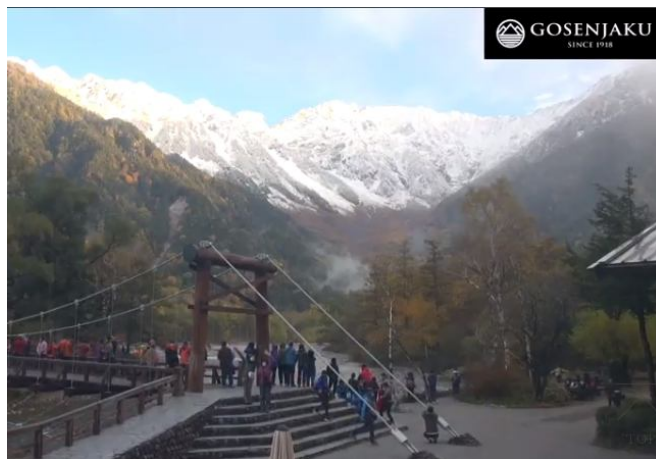
10月18日の日曜日、私は浅間牧場の牧草地に初冠雪の浅間山の写真を撮りに行った。



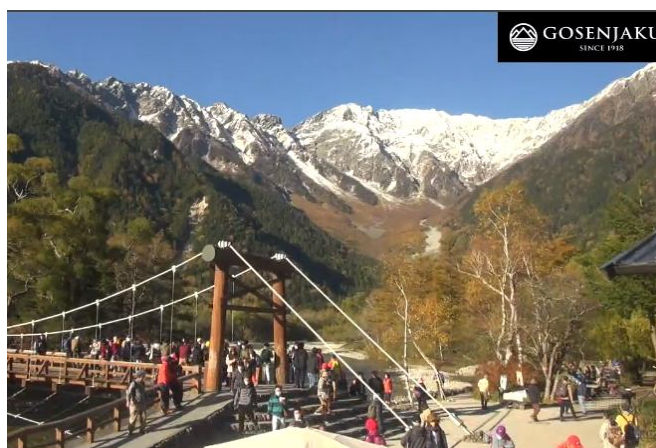
浅間山麓の牧草地は、正確には「採草地」である。牛を放牧するのではなく、機械で牧草を刈って、ロール状の塊(ロールバール・ラップ・サイレージ)を作り、それを厩舎の中の乳牛に与えるのだ。この場所も去年は採草地だったのだが、今年はトウモロコシ畑になっていた。その収穫も終わり、浅間がよく見えるようになったのだ。



雪を頂いていたのは、山頂部分だけだった。およそ標高2300m以上の山肌だけが、雪で白くなっている。このまま根雪になることは絶対になく、何度か融けては積もるを繰り返し、11月か12月にやっと完全に雪をかぶったままになる。



同じ日に、上高地の山々も雪化粧をした。梓川(あずさがわ)にかかる、有名な河童橋のそばの、五千尺ホテルにライブカメラがあり、今の上高地の様子を見られるのだ。18日の早朝、前夜の雪で連峰は真っ白になり、手前の岳沢(だけさわ)まで白くなった。



GoTo トラベルの影響か、河童橋は大変な混雑のようだ。何度か見たら、修学旅行の高校生らしい団体の姿も見られた。きっと良い思い出になっただろう。



残照の時間帯、雪はずいぶん後退した。上高地は自家用車は通年禁止で、松本へ下るバスも17時が最終なので、16時を過ぎると閑散としてくる。残っているのは、周辺のホテルやキャンプ場の宿泊客だろう。